

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2019年9月

主な出来事

- 1日、グテーレス国連事務総長は北キブ州ベニ市を訪れた。同日夜にはゴマからキンシャサに移動し、2日にはチセケディ大統領、イルンガ首相、マブンダ国民議会議長等と会談した。
- 6日、特別国会でイルンガ内閣の施政方針が採択され、同内閣の信任式が行われた。
- 10日、チセケディ大統領はスピーチで、2020年度予算では教育費の割合を8%から20%に増加させると述べた。
- 14日、カビラ前大統領はハラレで行われたムガベ前ジンバブエ大統領の国葬に出席した。
- 14日、国家警察報道官は、エボラ対策における公金の不正使用疑惑により、イルンガ前保健大臣が警察に勾留されたと発表した。17日には、同前大臣は横領の容疑で正式に告訴され、居住地拘束となった。
- 16日、チセケディ大統領はベルギーに到着し、空港でレンデルス・ベルギー副首相兼外務大臣の歓迎を受けた。また翌17日にはミシェル首相及びフィリップ国王と会談した。
- 18日、国軍報道官は、2012年に国際刑事裁判所(ICC)から逮捕状がだされた FDLR のムダクムラ司令官を北キブ州リュチュル地区で殺害したと発表した。
- 26日、チセケディ大統領は第74回国連総会で一般討論演説を行った。

1. 内政

(1) 電子査証システム導入の可能性／国民の生体認証識別キャンペーンの開始

- ・3日、チセケディ大統領は、「2025年に向けた国家デジタル通信技術計画」の検証ワークショップの開会式で、近々、電子査証システムを導入すると発表した。
- ・また、当国では1984年を最後に行われていない国勢調査を2020年までに実施することを念頭に、国民の生体認証による識別キャンペーンを開始すると発表した。

(2) イルンガ新内閣の信任

- ・6日、特別国会で、15の柱からなるイルンガ内閣の施政方針が採択され、同内閣の信任式が行われた(国営テレビ・ラジオ局(RTNC)生中継)。
- ・7日、チバラ前首相とイルンガ新首相は業務の引継ぎを行った。
- ・18日、イルンガ内閣の閣僚は、年間に350,000コンゴ・フラン(約190ユーロ)以上の贈与を受け取らないとの項目を含む誓約書に署名した(19日付 AFP)。

(3) チセケディ大統領のテレビメッセージ

- ・9日、チセケディ大統領による約5分のメッセージが国営テレビ・ラジオ局(RTNC)ニュースで放映され、同大統領は特に公の業務に携わる者に対し率先して態度を変更するよう述べ、国民に対し「メンタリティーの変容」を求めた。

(4) 教育予算の増加

- ・10日、チセケディ大統領は、ブラザビルで開催された投資フォーラム「Investir en Afrique」でのスピーチで、鉱物資源、電力及び教育分野の改革を約束し、2020年度予算では教育費の割合を

8%から20%に増加させると述べた(11日付 ACP)。(当館注:「Investir en Afrique」は中国の主権により世銀等が共催した。)

(5)連立内閣初の閣議

・13日、チセケディ大統領は、イルンガ連立内閣で初となる閣議を主催し、連立内閣の使命遂行のための連帯を求め、また閣僚に対し、倫理観及び道徳観を尊重するよう促した(13日付 AFP)。

(6)通常国会の開幕

・16日、通常国会が開幕し、午前には上院、午後には国民議会で開会式が催された。(当館注:通常国会の開会は通常15日だが、当日が日曜日にあたったため、16日の開会となった)。

2. 外交

(1)イスフ・ニジェール大統領のコンゴ(民)訪問

・6日、イスフ・ニジェール大統領は、6日から7日にキンシャサ市で開催された投資フォーラム「Sultani Makutano」に参加するためキンシャサに到着した。なお同フォーラムには、チセケディ大統領をはじめ、ジョンソン前リベリア大統領、ドラマニ前ガーナ大統領等が参加した(大統領府ツイッター)。

(2)チセケディ大統領のコンゴ(共)訪問

・9日、チセケディ大統領は、10日から12日に開催された経済フォーラム「Investir en Afrique」に出席するため、ブラザビルに到着した(9日付 ACP)。

・10日、チセケディ大統領は「Investir en Afrique」に出席したルワンダ、中央アフリカ、アンゴラ及び共催国であるコンゴ(共)の大統領に対し、次回フォーラム(第6回)をコンゴ(民)で開催するための協力を求めた。なお、同大統領は同日午後にキンシャサに帰国した(10日付 ACP)。

(3)カピラ前大統領がムガベ前ジンバブエ大統領の国葬に出席

・14日、カピラ前大統領はハラレを訪れ、ムガベ前ジンバブエ大統領の国葬に出席した(FCC 及び PPRD ツイッター)。

・なお、これに先立ち PPRD は10日、同党本部でムガベ前大統領の追悼式を催した。

(4)チセケディ大統領のベルギー訪問

・16日夜、チセケディ大統領は、大統領就任後初めて、自身が就学及び就業していた国であるベルギーに到着し、空港でレンデルス・ベルギー副首相兼外務大臣の歓迎を受けた(大統領府ツイッター)。

・17日、チセケディ大統領はミシェル首相及びフィリップ国王と会談した。また両国は、外交協力、国際協力、財政協力の3分野における覚書に署名した。同日夕方、チセケディ大統領はベルギー企業連盟(FEB)でスピーチを行った(大統領府ツイッター)。

・18日、チセケディ大統領はアントワープ港及びアントワープ世界ダイヤモンドセンター(AWDC)を訪れ、2件の二国間議定書(コンゴ(民)における港湾等局の設置及び、コンゴ(民)産ダイヤモンドの産業化促進)に署名した(18日付 AFP)。

・19日夕方、チセケディ大統領は公式日程の締めくくりに(当館注:20日以降は私的日程となる)にユンカー欧州委員会委員長と会談した。なお、同会談に先立ちチセケディ大統領はベルギーLe Soir 紙のインタビューで、現在 EU から制裁を受けている14名に対する制裁措置の解除を求める予定と述べていた。

(5)チセケディ大統領の第74回国連総会出席及び米国訪問

- ・23日、チセケディ大統領は、ニューヨークの国連本部で「気候行動サミット」に出席した。チセケディ大統領は会場で、グテーレス国連事務総長、カガメルワンダ大統領、ムクウェゲ医師等と意見交換を行った(大統領府ツイッター)。
- ・24日、チセケディ大統領は第74回国連総会の開会式に出席した。同日、チセケディ大統領はまた、「国際理解のためのビジネス協議会(BCIU)」でのラウンド・テーブルに参加した他、ビル・ゲイツ氏とも協議した(大統領府ツイッター)。
- ・26日、チセケディ大統領は第74回国連総会で一般討論演説を行った。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1) MONUSCO が南キブ州での存在を強化

- ・16日、MONUSCO は、暴力状況に襲われている南キブ州の高原地方にあるミネンブエ地区における市民の保護手段を強化すると発表した(16日付 AFP)。

(2) FDLR 司令官の殺害

- ・18日、コンゴ(民)国軍(FARDC)報道官は、同日未明、北キブ州リュチュル地区ブワイトで、FDLR(ルワンダのツツ族系反政府武装勢力)のムダクムラ司令官(Sylvestre MUDACUMURA)を殺害したと発表した。同司令官は2012年に国際刑事裁判所(ICC)から逮捕状がだされていた。なお FARDC によると、この攻撃ではムダクムラ司令官に加え、補佐官を含む4名を殺害し、武器も押収した(18日及び19日付 AFP)。

(3) イツリ州ジグ地区の情勢

- ・18日、イツリ州ジグ地区のンガドゥ村(Ngaddu)が何者かに襲撃され、14名が死亡、4名が負傷した。同地区では今年6月から7月にかけて多くの襲撃が発生し、その後しばらく小康状態になったが、ここ数週間のところ暴力的状況が再燃している(18日付 AFP)。
- ・19日、MONUSCO はコミュニケで、17日から18日の二日間で、市民28名が殺害されたと伝えた。

(4) FARDC 兵士とおぼしき男が市民6名を射殺

- ・22日、北キブ州ベニ地区オイチャで、FARDC の制服を身につけた男が市民の集団に発砲し、6名が死亡した。その後、怒った住民が、犯人であるとして、1名の軍人を殺害した(23日付 AFP)。

(5) Banro 社(加)が子会社4社の操業停止を発表

- ・24日、東部地域で探鉱を行う Banro 社(加)は、労働省総監に宛てた同日付書簡で、同社の子会社4社(Namoya Mining 社、Lugushwa Mining 社、Kamituga Mining 社、Banro Mining Congo 社)の操業を停止し、従業員を解雇すると発表した。同社は決定の理由を、治安問題及び事業への嫌がらせ等と説明した(28日付 AFP)。

4. その他

(1) グテーレス国連事務総長のコンゴ(民)訪問

- ・1日、前日(8月31日)に北キブ州ゴマ市入りしたグテーレス国連事務総長は、ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)による市民の襲撃及びエボラ出血熱が流行している同州ベニ市を訪れた。なお、同日夜にはゴマからキンシャサに移動した。
- ・2日、グテーレス国連事務総長はチセケディ大統領、イルンガ首相、マブンダ国民議会議長と個別に会談した。

(2) アンボンゴ・キンシャサ大司教の枢機卿就任

- ・1日、ローマ法王フランシスコは、10月5日に新たに指名される10名の枢機卿のひとりに、アン

ボンゴ・キンシャサ大司教 (Mgr Fridolin AMBONGO, コンゴ・カトリック司教会議 (GENCO) 副議長) を選出したと発表した。

(3) 南アの外国人排斥行動に対するコンゴ(民)での影響

・5日, 数日前から南ア国内でアフリカ人を標的とする外国人排斥行動が激化しているのに関連し, ルブンバシ市の南ア領事館が襲撃され, 南ア系の商店が略奪された(5日付 AFP)。

(4) タンガニーカ州の脱線事故で14名が死亡

・12日, タンガニーカ州で貨物及び客車の脱線事故が発生した。コンゴ(民)政府の発表によると, 同事故による死者は14名で, 負傷者は18名(うち7名は重傷)である(14日付 AFP)。

(5) アザール米国保健福祉長官のコンゴ(民)訪問

・12日, アザール米国保健福祉長官は, エボラ対策及び公衆衛生システム等に関する各方面との協議のためコンゴ(民)を訪れ, 13日にはチセケディ大統領とも会談した。

(6) Sawyer ヒューマン・ライツ・ウォッチ前コンゴ(民)所長とチセケディ大統領の会談

・13日, チセケディ大統領は, 2016年8月に, コンゴ(民)当局から滞在ビザの更新を拒否されたため出国を余儀なくされ, 3年ぶりにコンゴ(民)を訪れた米人権系 NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)」の Ida Sawyer 前所長(現在は HRW アフリカ副局長)と会談した。

(7) イルンガ前保健大臣の横領疑惑

・14日, コンゴ(民)国家警察(PNC)報道官は, イルンガ前保健大臣がエボラ対策における公金の不正使用疑惑により, 同日, 警察に勾留されたと PNC のツイッターで発表した。同報道官はまた, PNC はイルンガ前保健大臣が中央コンゴ州からブラザビルに逃れようとしているとの情報を得たと伝えた。

・14日, イルンガ前保健大臣の弁護団はコミュニケで, 「イルンガ前大臣は決してブラザビルに渡ろうとはしていない」と反論した。

・17日, イルンガ前保健大臣は横領の容疑で正式に告訴され, 居住地拘束となった。

(8) WHO がエボラ対策における新ワクチンの導入を発表

・23日, WHO は, ジョンソン&ジョンソン社(J&J)の抗エボラ・ワクチンを10月中旬から導入すると発表した。国境なき医師団(MSF)はこれに先立ち, WHO が メルク社製ワクチンの供給を制限していると非難していた。J&J 社のワクチンはコンゴ(民)で2番目の実験的ワクチンとなる(23日付 AFP)。